

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 東海市地域公共交通会議 (東海市)

平成22年2月17日設置

平成28年3月 東海市地域公共交通網形成計画策定  
(計画期間：平成28年度～令和5年度)

令和3年6月25日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和4年12月22日 令和4年度評価結果送付

調査事業 (計画策定) 令和6年3月 地域公共交通計画策定予定

## (1) 東海市の公共交通

- 太田川駅を中心に、南北は鉄道（名鉄常滑線、名鉄河和線）、東西は路線バス（上野台線、横須賀線）が基幹軸として形成されている。
- 大府市と本市を結ぶ地域間幹線系統（横須賀線A）がある。
- 循環バスは市内全域を補完的に運行している。

## (2) 東海市地域公共交通網形成計画

1) 計画の期間：平成28年度～令和5年度

2) 基本理念：

人が集まり、つながる、快適な都市交通の実現

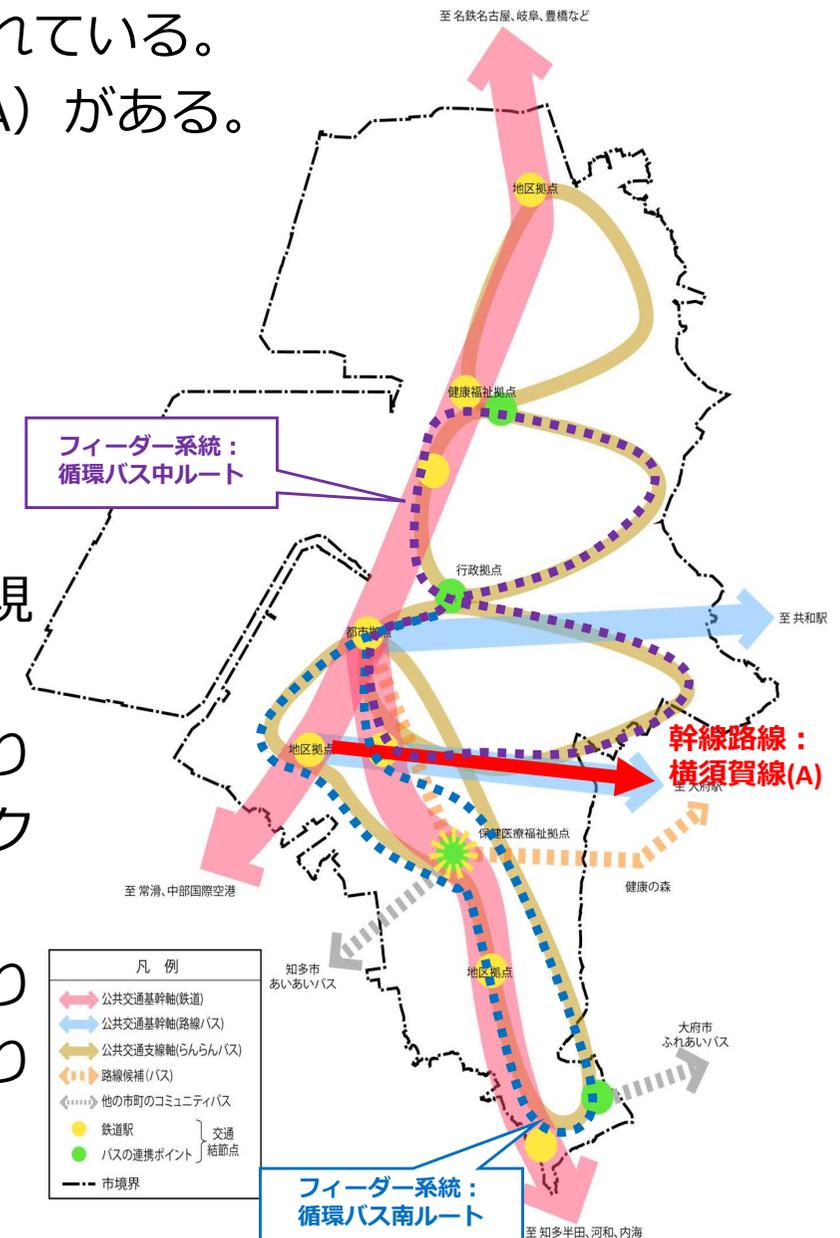
3) 基本目標：

基本目標①：公共交通を中心とした交通体系づくり

基本目標②：持続的発展を支える道路ネットワークの充実

基本目標③：安全・安心に暮らせる交通環境づくり

基本目標④：人・地域が主役の交通行動意識づくり

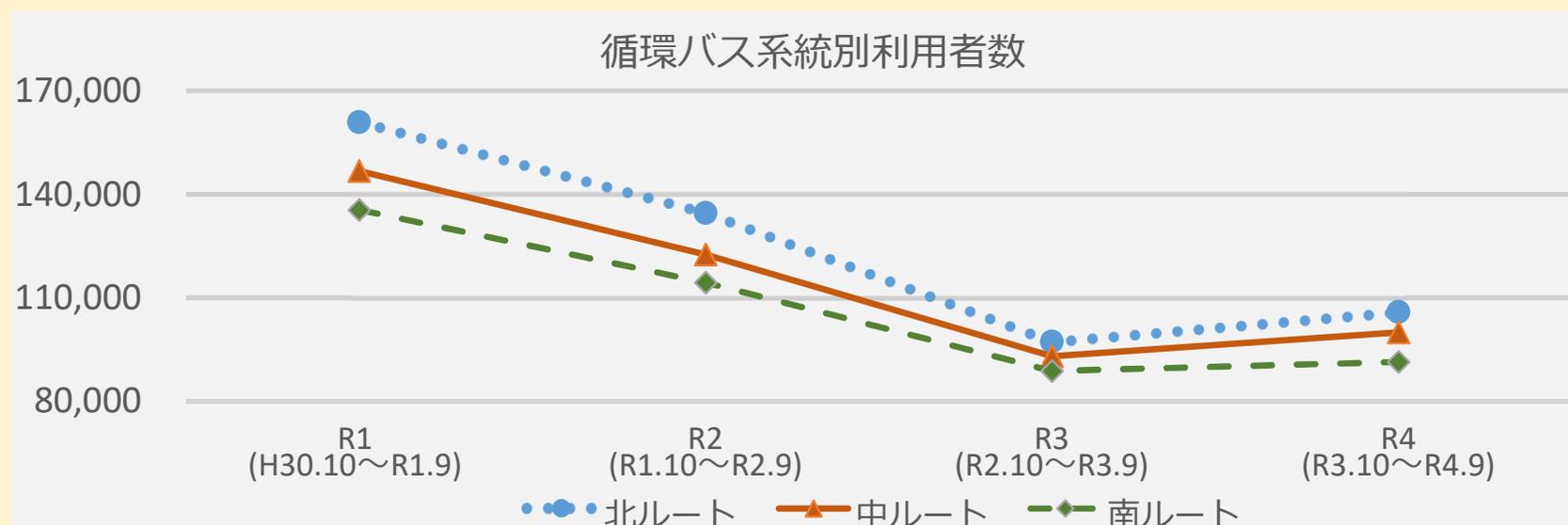


### (1) ★循環バスの中・南ルート<sup>①</sup>の運行（フィーダー補助受給系統）

- ・バスロケーションシステムの導入により、運行状況に関する問い合わせが減り、サービス向上に繋がっている。
- ・駅利用者の利便性を考慮した販売店（観光物産プラザ）で定期券を販売することで、販売実績も増加している。

参考：541,500円(R2.10～R3.9)→694,300円(R3.10～R4.9) 152,800円増加

- ・東海市、大府市、知多市、知多バスがそれぞれのHPに他の路線のページのリンクを貼り、協働して利用促進を図っている。
- ・全車両に抗菌処理を施し、より安心・安全に利用できる環境を整えている。
- ・令和2年10月のダイヤ編成から2年が経ち、市民生活への浸透が進んだと考えられ、利用者数は全ての系統において前年同時期と比較して微増しているが、依然としてコロナ禍以前の利用者数の3割減となっている。



## (2) バスの乗り方教室

- ・バス事業者と協力し、市内小学生を対象にバスへの関心や交通安全の意識を高めってもらうため、バスの乗り方教室を実施した
- ・児童からバスに乗って出かけてみたくなった等の声も多く、学校からの継続要望もあり、今後も引き続き行っていく
- ・次回の乗り方教室では親子でバスに乗ってもらえるようにバスマップ等配布する
- ・実施日：令和4年6月8日
- ・実施校：緑陽小学校（3年生・80人）、富木島小学校（2年生・109人）



## (3) バスロケーションシステム講習会

- ・市民福祉部と連携し、高齢者を対象にしたバスロケーションシステムの講習会を実施し、高齢者の外出促進を図った
- ・高齢者からバスを待つ不安な気持ちがなくなった、バスを利用しやすくなった等の好評の声が多くあり、今後も引き続き行っていく
- ・実施期間：令和4年8月2日から9月29日 計12回（参加者111名）



## (4) 特別乗車証の制度変更

- ・75歳以上の方から後期高齢者医療保険証を提示する前制度は、保険証を紛失する恐れがあるため、使いづらいとの意見が多く寄せられていた
- ・特別乗車証として専用カードを発行することにより、保険証の提示が不要になり、利用者の利便性向上を図った（障害者手帳保持者・運転免許証自主返納者に対しても同様のカードを発行）
- ・今後の75歳以上の利用者数の推移を注視していく
- ・実施期間：令和4年8月1日から



## (5) ★地域公共交通計画策定調査業務の実施（令和5年度計画策定予定）

事業内容	結果概要
<b>市民アンケート</b> (8/5発送～8/31) 16歳以上の市民3,500人	回収率：52.6% <ul style="list-style-type: none"><li>・通院や買い物で公共交通機関を利用する人の多くは、他に交通手段がないためやむを得ず利用している</li><li>・バスを不便だと感じる理由は、ルートや運行本数、所要時間などバスのサービス水準に関わる理由が多かった</li><li>・バスのルートが分かりづらいとの意見も多かった</li></ul>
<b>乗降調査</b> (9/18、9/27) 循環バス（全便調査） 路線バス（サンプル調査） ※聞き取り調査	回収率：98.8% <ul style="list-style-type: none"><li>・循環バスは朝夕ダイヤ、昼間ダイヤともに鉄道との接続駅その他、西知多総合病院の利用が多い</li><li>・昼間ダイヤでは、アピタ、しあわせ村（公共施設）、市役所の利用も多い</li><li>・路線バスの上野台線は平日・休日で利用者数の差が少なく、横須賀線は沿線の高校利用者が多いため、休日の利用者が少ない</li></ul>
<b>利用者アンケート</b> (乗降調査日～10/31) ※手渡し配布	回収率：36.1% <ul style="list-style-type: none"><li>・循環バスは通院、買い物利用者が55%</li><li>・路線バスは通勤、通学利用者が62%</li></ul>

### (5) ★地域公共交通計画策定調査業務の実施（令和5年度計画策定予定）

#### 調査結果の地域公共交通計画への反映・検討事項

- ・通院、買い物で循環バスを利用する人の多くは、他に交通手段がないという調査結果が出ていることから、これらの交通弱者の足を確保するため、ニーズを細かく分析し、ルート・ダイヤに反映させていく
- ・ルートや運行本数、所要時間などのバスのサービス水準に関する不満が多かったことから、バス停ごとの利用実態を分析し、利用の少ないバス停の便数を減らして所要時間を短縮させたり、需要の多い時間帯・路線に対して局所的に車両を追加するなど、様々な可能性について分析し、サービスの改善に努める
- ・バスのルートが分かりづらいとの意見も多く見られたことから、全体の路線図の他にも系統ごとの路線図を大きく記載したり、他の公共交通機関との乗り継ぎ箇所についても分かりやすく記載するなど、より丁寧な情報提供を心掛ける
- ・バス事業者だけでなく、鉄道事業者、タクシー事業者とも連携を図り、接続や効率の良さを検討し、利用者の利便性向上に努める

評価指標	数値目標	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和3年度 達成状況
鉄道乗降客数	<b>46,000</b> 人/日	54,712 人/日 (○達成)	42,679 人/日 (×未達成)	<b>45,210</b> 人/日 (×未達成)	目標値には達していないが、昨年度数値42,679人/日と比較すると増加傾向にある。大学の対面授業や企業のオフィスワークの再開による影響だと考える。
市内路線バス利用者数	<b>367,000</b> 人/年	254,000 人/年 (×未達成)	196,370 人/年 (×未達成)	<b>188,340</b> 人/年 (×未達成)	便数が減ったこと及び外出自粛による昼間の利用者が減少したと考える。また、駅の自転車利用者が増加していることから、一部の利用者がバスから自転車に交通手段をシフトしたと考える。
循環バス利用者数（会計年度実績）	<b>365,000</b> 人/年	439,646 人/年 (○達成)	299,336 人/年 (×未達成)	<b>284,794</b> 人/年 (×未達成)	コロナ禍において、通院自粛や宅配サービスの充実などによる外出自粛などが影響し、利用者が減少したと考える。また、路線バス同様、自転車利用者の増加も影響していると考えられる。
買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合（第6次東海市総合計画に関する市民アンケート）	<b>60.5%</b>	56.2% (×未達成)	63.8% (○達成)	<b>61.1%</b> (○達成)	土地区画整備事業における道路整備などによる渋滞緩和が進み、利便性の向上に繋がったと考える。

計画目標の現在の到達点	考 察	今後の取組方針
令和3年度目標値は未達成であるが、令和4年度に入り循環バスの利用者は増加傾向が続いている	令和2年10月のダイヤ再編から2年が経ち、一部の市民生活には浸透したと考えられるが、市民アンケートや利用者アンケート調査結果からは、便数や乗り継ぎに対する不満が多く見られた	<ul style="list-style-type: none"><li>●昨年度導入した路線バスでのICカード利用率が高いことから、循環バスにICカード決済を導入することにより、利用者の利便性向上を図る【令和5年4月導入予定】</li><li>●アンケート調査の地域ごとのクロス集計などの分析を進め、地域特性に合わせたルート・ダイヤ編成を検討していく</li><li>●福祉部局や鉄道事業者との連携を図り、循環バスと福祉バス・鉄道との接続について検討する【令和6年10月改正予定】</li></ul>
市内路線バスの利用者数が大幅に減少し、減便によるダイヤ改正が続いている	通勤・通学の時間帯における駅までの利用者や、沿線の高校までの利用者は多いが、平日の昼間や休日の利用者が少ない	<ul style="list-style-type: none"><li>●令和4年度に実施した路線バスの乗降調査等から、平日の昼間や休日の利用者が少ないため、循環バスとの乗り継ぎをやすくしたり、ICカード決済を導入することで利便性向上を図り、利用者の増加に努める。</li><li>●継続して循環バスの時刻表に路線バスの時刻表を折り込む</li><li>●循環バスの路線図のレイアウトを工夫して、路線バスとの接続を分かりやすく記載・周知することで、利用促進に努める【令和6年10月改正時】</li></ul>

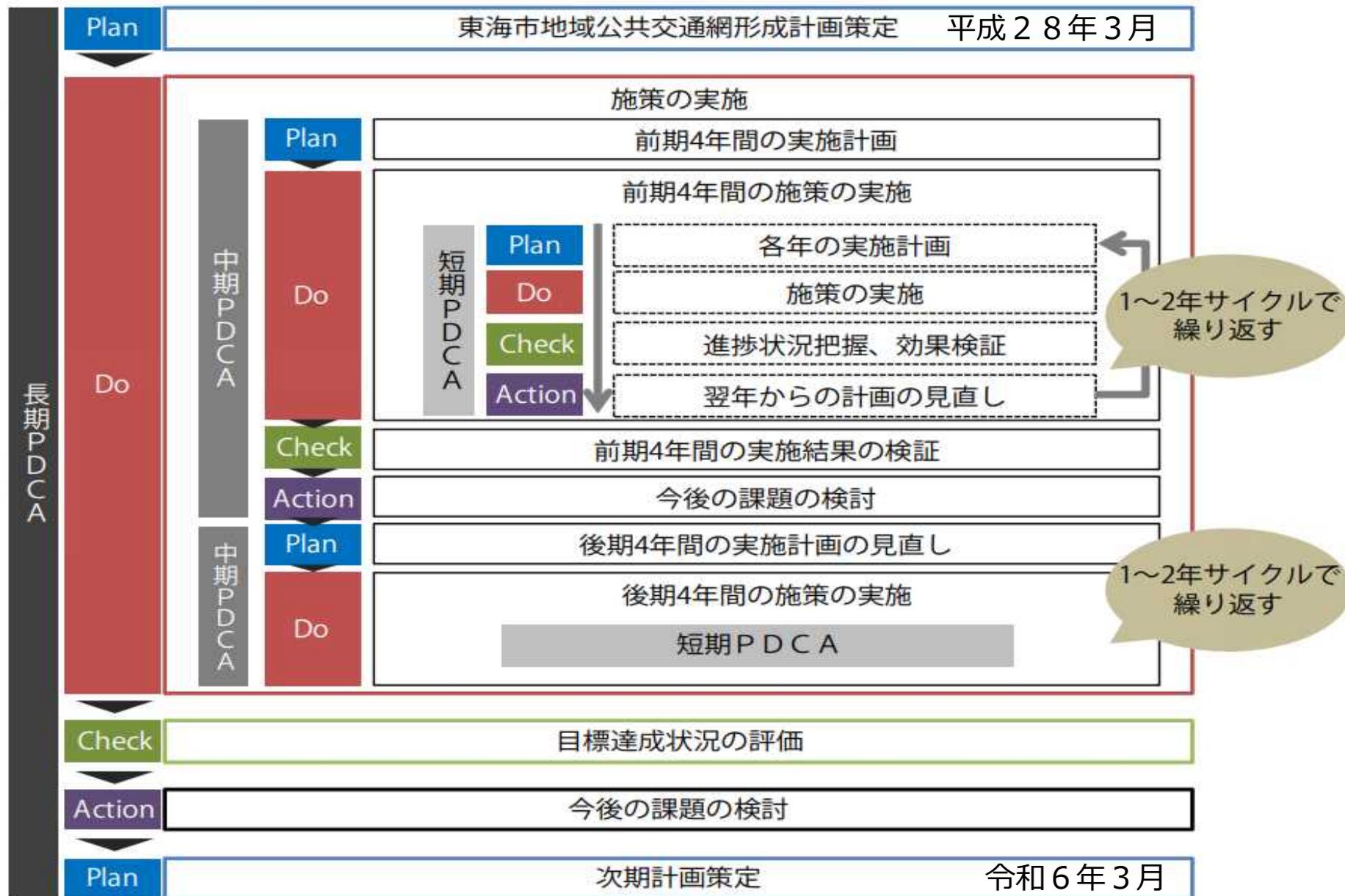
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	バスロケーションシステム、GTFSデータの公開、二次元バーコード決済の導入により利便性の向上を図ったことを評価する	バスロケーションシステムの二次元バーコードを各バス停や時刻表に記載する等、周知を図った	利用者の利便性向上を図るため、令和5年度からICカード決済を導入予定
	朝夕ダイヤの新設、定期券を導入し駅の観光物産プラザでも販売するなど、通勤・通学を目的とした利便性向上を図ったことを評価する	引き続き、定期券の販売を実施 実績：541,500円(R2.10～R3.9)→694,300円(R3.10～R4.9) 152,800円増加	ICカード決済の導入を周知する際に、併せてお得な定期券の周知を図る
	地域間幹線系統の利用がフィーダー補助にとっても重要であることから、沿線市町と協働して状況を把握するとともに、利用促進に取り組まれることを期待する	市のホームページに路線バスのリンクを貼ったり、らんらんバスの時刻表に路線バスの時刻表を折り込む等、路線バスの周知を図り、利用促進に取り組んだ	令和4年度に実施した市民アンケートや乗降調査結果を基に、路線バスや近隣市のコミュニティバスとの接続について検討し、最適なルート・ダイヤを作成する
	知多バスとらんらんバスの役割分担について、事業者とのコミュニケーションを十分にとり、検討を進めることを期待する	定期的に連絡を取り合い、路線バスのダイヤ改正の際には、市民への周知に努めた	

※前回：令和4年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	コミュニティバスの朝夕ダイヤを設定（令和2年10月～）するなど、地域に合った改善を図っていることが確認できた	市広報紙やホームページに掲載することで、朝夕ダイヤの周知を図った	令和4年度に実施した市民アンケートや乗降調査を基に次期ルート・ダイヤを検討していく
	小学生や高齢者、園児の保護者を対象にバスの利用促進を図る取組を行っていることが確認できた	小学生のバスの乗り方教室の他、高齢者を対象としたバスロケーションシステムの使い方講習会を実施した	今後も他部局と連携を図り、様々な年代に対して利用促進を図っていく
	令和2年10月に改訂したダイヤ等について、利用状況を分析し、今後の利用促進を図ることを期待する	毎月の利用者数や月2回の乗降調査を集計し、利用状況を把握している	令和4年度に実施した市民アンケートや乗降調査を基に次期ルート・ダイヤを検討していく
	広域路線の維持等、近隣市町と連携した取組が行われることを期待する	知多市・大府市と定期的に情報交換を行っている	令和6年度に養父森岡線(幹線道路)が開通する際には、大府市への乗り入れも検討していく
	バスロケーションシステムの導入、GTFS化への対応等、利用者の利便向上が図られることを期待する	令和3年にGTFSデータを公開し、利用者の利便性向上を図った	引き続き、バスロケーションシステム等の周知を図っていく

※前々回：令和3年3月1日

■地域公共交通網形成計画の実施における PDCA サイクル



## 【地域公共交通会議の実施状況】

### <令和3年度>

- ・ **第1回地域公共交通会議**（令和3年6月25日）  
主な議題：令和4年度生活交通確保維持計画策定
- ・ 第2回地域公共交通会議 <書面報告>
- ・ **第3回地域公共交通会議**（令和3年12月22日）  
主な議題：地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について
- ・ **第4回地域公共交通会議**（令和4年2月15日）  
主な議題：地域公共交通計画調査事業について
- ・ 令和4年3月11日～3月25日 <書面協議>  
主な議題：令和4年度生活交通確保維持計画認定変更

### <令和4年度>

- ・ **第1回地域公共交通会議**（令和4年6月24日）  
主な議題：令和5年度生活交通確保維持計画
- ・ **第2回地域公共交通会議**（令和4年9月1日）  
主な議題：地域公共交通計画調査事業について
- ・ **第3回地域公共交通会議**（令和4年12月22日）  
主な議題：地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月22日

協議会名: 東海市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦東海市循環バス中ルート③ 太田川駅前を起終点とする 23.9km</li> <li>㊧東海市循環バス中ルート④ 太田川駅前を起終点とする 23.7km</li> <li>・東海市循環バス南ルート⑤ 加木屋車庫前を起終点とする 24.2km</li> <li>一東海市循環バス南ルート⑥ 加木屋デイサービスセンターを起終点とする 23.6km</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスロケーションシステムの二次元バーコードを各バス停や時刻表に記載する等、周知を図った</li> <li>・太田川駅の観光物産プラザにて定期券の販売を引き続き行った</li> <li>・福祉部局と連携して高齢者に対する外出促進施策に併せて、バスロケーションシステムの使い方講習会を開催する等、バスの利用促進を図った</li> <li>・次期ルート・ダイヤ改正に向けた市民ニーズの把握のため、市民アンケート調査及び、乗降調査・利用者アンケート調査を実施した</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスロケーションシステムの導入により、運行状況に関する問い合わせが減少し、サービス向上に繋がった。</li> <li>・定期券の販売についても周知を図り、駅利用者の利便性を考慮した販売店である観光物産プラザでの販売実績も増加傾向にある</li> <li>・事業者や近隣市(大府市・知多市)担当者との情報交換を定期的実施し、それぞれのホームページに他の路線のリンクを貼ったり、他の時刻表を折り込んだりするなど、協働して利用促進を図っている</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>【中ルート】 循環バスの利用者数(会計年度) 目標:14万2千人 実績:9万6千人</li> <li>【南ルート】 循環バスの利用者数(会計年度) 目標:14万人 実績:9万人</li> <li>コロナ禍において、通院自粛や宅配サービスの充実などによる外出自粛などが影響し、利用者が減少したと考える。また、駅の自転車利用者が増加していることから、一部の利用者がバスから自転車に交通手段をシフトしたと考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ごとのクロス集計などの分析を進め、地域特性に合わせたルート・ダイヤ編成を検討する</li> <li>・福祉部局や鉄道事業者と連携を図りながら、循環バスと福祉バス・鉄道との接続を検討する</li> <li>・車内だけでなく、広報紙やHPなどでもバスロケーションシステム、定期券、二次元バーコード決済等の周知を図る</li> <li>・利用者の利便性向上を図るため、令和5年度にICカード決済を導入する</li> <li>・令和6年度に養父森岡線(幹線道路)が開通した際の大府市への乗り入れについて検討していく</li> <li>・令和6年度にルート・ダイヤを改正する</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年12月22日

協議会名:	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東海市は、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅から知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市のJR共和駅・大府駅と太田川駅を連絡する独自路線バス(知多バス上野台線・横須賀線)により東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらの公共交通基幹軸を補完し、市内の公共施設及び住宅地域を結ぶ地域内フィーダー交通として循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。</p> <p>令和6年3月には市内に名古屋鉄道の新駅(名鉄河和線 高横須賀駅～南加木屋駅間)が完成し、令和6年度中には隣接する大府市へ抜ける養父森岡線(幹線道路)が開通することから、今後市内交通の流れが大きく変わることが予想される。</p> <p>また、本市の中心的交通結節点である太田川駅周辺には、東海市芸術劇場を始めとした文化施設・大学・商業施設等が整備されており、各施設の来訪者のみならず、令和9年のリニア中央新幹線の開通に併せて新たな人流が生まれ、より一層の「にぎわい」創出が予想される。</p> <p>地域内フィーダーである東海市循環バスは、令和4年度に実施した市民アンケートでは60%の市民からバス交通は必要であるとの回答が得られている。令和3年10月～令和4年9月中の利用者数は、前年同時期と比較して約18,000人増加しており、わずかではあるが回復の兆しが見えてきており、生活必需品の購入や通院等、公共交通機関を利用しなければならない固定利用者が戻ってきたと推測される。</p> <p>また、地域間幹線系統である知多バス横須賀線についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、利用者数が減少していることから収益が伸び悩んでおり、平成28年には一部路線が廃止となり、令和4年には2度にわたり減便によるダイヤ改正が行われる等、幹線の路線維持が喫緊の課題となっている。</p> <p>今後は、令和4年度に実施した市民アンケート調査等の分析を進め、市民の公共交通に対する期待値や需要をしっかりと把握した上で、持続可能な公共交通体系の一部として循環バスの運行を継続していく必要がある。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和4年12月22日

協議会名:東海市地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート調査(16歳以上の市民3,500人を対象とした公共交通に関する意識調査)</li> <li>→8/5発送、8/31返信期限:回答率52.6%</li> <li>・乗降調査(路線バス、循環バスのODを平・休日各1日調査)</li> <li>→9/18、9/27実施:回収率98.8%</li> <li>・バス利用者アンケート調査(OD調査時のバス利用者を対象にバスに関する意識調査)</li> <li>→9/18、9/27配布、10/31返信期限:回答率36.1%</li> <li>・交通事業者ヒアリング</li> <li>→12/15実施済み</li> <li>・地域公共交通計画の素案作成</li> <li>・路線の見直し及び運行計画の素案作成</li> <li>・東海市地域公共交通会議運営補助</li> <li>→6/24、9/1、12/22実施済み、2/14実施予定</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海市地域公共交通計画策定支援業務委託</li> <li>・事業内容</li> <li>  市内公共交通に関する現況調査</li> <li>  市民アンケート調査</li> <li>  乗降調査</li> <li>  バス利用者アンケート調査</li> <li>  交通事業者ヒアリング</li> <li>  地域公共交通計画(案)のとりまとめ</li> <li>  協議会開催補助</li> <li>・地域公共交通計画策定期限【令和6年3月】</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年12月22日

協議会名:	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東海市は、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅から知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市のJR共和駅・大府駅と太田川駅を連絡する独自路線バス(知多バス上野台線・横須賀線)により東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらの公共交通基幹軸を補完し、市内の公共施設及び住宅地域を結ぶ地域内フィーダー交通として循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和2年度の循環バス利用者数は前年度比3割減となり、令和3年度も同水準であったが、令和3年10月～令和4年9月中の利用者数は、前年同時期と比較して約18,000人増加しており、わずかではあるが回復の兆しが見えてきており、生活必需品の購入や通院等、公共交通機関を利用しなければならない固定利用者が戻ってきたと推測される。</p> <p>また、地域間幹線系統である知多バス横須賀線についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、利用者数が減少していることから収益が伸び悩んでおり、平成28年には一部路線が廃止となり、令和4年には2度にわたり減便によるダイヤ改正が行われる等、幹線の路線維持が喫緊の課題となっている。</p> <p>このような課題を解決するに当たり、市民の公共交通に対する期待値や需要をきちんと把握する必要があるため、令和4年度に市民アンケートや乗降調査等を実施した。その結果、地域や年代ごとの特性が見えてきたことから、今後さらに分析を進め、路線バスや近隣市のコミュニティバスとの接続についても検討し、地域における輸送資源を最大限生かした持続可能な公共交通体系の構築を掲げた地域公共交通計画を策定するため、調査業務を継続する必要がある。</p>